幼児を保育する教師は、幼児がたのしく一日を過すことができたかどうかが一番気にかかる。教師が学校の学習のように指導し、与えることばかりでは、幼児はたのしくなく、そこには将来への伸張もみえない。幼いよき芽はみなつみ取られてしまう。

幼児の自発性は常に活動している。そのため筆者の経験のように、自発性、自発活動をうまく指導する事によって、幼児はいかにたのしく、生活が生き生きとしてくることか。そこには幼児の創造性が活動し、発展している。蟻ごっこはよい例であろう。

また、筆者が案じていられるように教師としては幼児の自発性ばかりまってはいられない。そこで教師が計画もし、カリキュラムも組んで進めていくのだが、筆者の失敗の例のようにおわるのが普通であるが、やはりそれでは筆者のように教師としても、ものたりなく、幼児は勿論たのしくなく興味も、発展もみない。で、教師は環境をととのえたり、幼児に経験させたりして幼児の自発性を誘導しなければならないであろう。即ちそこが教師の技術と手腕にまつことになるのであろう。

こうしてこそ、幼児の生活の中より取材したのと、教師の設定した計画とがスムースにしかも、よろこびや、たのしみに満ちた活動ができるのだと思う。

幼稚園の教育は小学校の教科のように分別できない。六領域の経験が常に交互して来、教師もその機会をとらえて指導しなければならない。その意味でも「蟻ごっこ」の発展にはよくその点があらわれている。こうして一つの主題が発展していくことにより主題は一つでも、幼児はさまざまの経験をするわけである。教師はその機会をのがさないように指導することが大切となってくるであろう。(H)

続させるべく支えて来た保育計画とが巧くマッチしたことによると思う。（大蔵幼稚園）

社会性を高めるのに役立った集団あそび

松岡定子

輪とりの記録

四月に三年保育の五才児（男一九名、女一九名）を担任することになったので、四月から五月にかけて子どもたちの遊びのようすを観察記録してみた。（次頁表は一部抜萃）

その結果つぎのような問題点がみられた。

○固定したグループによる固定した遊びが多い。○遊びに積極的に加われない子ども三名、傍観的な子ども二名があった。

そこで特に今年度は固定したグループの枠をはずし、対人関係を広くすること、また全員が平等な立場で参加できるような集団遊びを経験させ、遊びを通して子どもたちがルールを発見し、ルールに従って遊びを進めて行くような望ましい方向へもって行くなどの指導に留意することとした。

一例をあげてみることにする。

六月中旬　六月十六日（木）、七、八名の子どもが籐製のゲームなどに使う輪を持って運動場を走り廻り、空中に投げたりしていた。しかし遊びとしてまとまりがなく興味も持続しなかった。そこでこの輪を使用して「輪とり遊び」を考えてみることにした。

一、指導の順序と発展のようす

1、六月十八日（土）

各自一つの輪をもって自由に運動場をかけ廻り、友だちにさわったら互に（じゃんけん）をし、勝った方に輪を渡すという遊びをさせてみた。（参加人員三〇名）

「おもしろくなりかけた時やめるのか。」とい

った子どものことばや、遊びの状態から推して、集団あそびとして発展し得ると予想した。

2、六月二十日（月）

主活動として「輪とり」を扱う。（9.40～10.20）

◉目標　新しい遊びのルールを知り、じゅうぶん楽しむ。

◉指導の重点

○男女別に分れて陣地をきめる。

月日 / 氏名	4月 6	7	14	15	21	22	26	27	5月 10	14
1	＝	＝	エ	エ	エ	エ		エ	え	
2			エ		エ		＝		＝	
3	＝	＝	＝	＝	＝	＝		＝	＝	＝
4			＝		パー	パー	＝		＝	
5			＝		＝	＝		＝	＝	＝
6	＝	＝	＝		＝	＝	＝			え
7				＝	＝	＝		―	え	
8				＝	パー	パー	＝			
9	△			エ	△	エ			＝	
10		＝		エ	＝	＝	エ	＝	△	
11			△	△	△	△	＝			
12			エ	エ	＝	＝	＝		＝	＝
13			え	え	エ	エ			エ	
14			え	え	エ	より	エ	―	＝	＝
15	＝	＝	＝	＝	＝	＝	＝	＝	＝	
16			＝	え	＝	＝	＝			
17					＝	＝	ええ			
18		＝	＝	＝	エ	＝		＝		
19		＝			エ	エ		―		

月日 / 氏名	4月 6	7	14	15	21	22	26	27	5月 10	14
1		―			―	―	―	―		＝
2			―	＝		･･･			―	―
3		＝	―	＝	＝	･･･			―	―
4	―	―	―	―			―	―		―
5	―						―	―	―	―
6		＝		―	―	―	＝	＝		―
7		＝		＝	―		＝	＝		―
8		―		―					―	―
9	―	―	―	＝	＝	･･･	―	＝	―	＝
10		＝				･･･				―
11		―	―	―	―	―	―	―		―
12		―			＝	―	―	―		―
13			―		―	―	―	―	―	＝
14						―		△		△
15		＝			＝					―
16	△				△	･･･		△		△
17	―	―	―	―	―	―	―	―		―
18			―				―			―
19				△	―	△				―

一 木組木
＝ ままごと
･･･ 野球
エ 絵本
え 絵画
□ その他
△ 積極的 ＝消極的 ない
△ 傍観的

○各自一つずつ輪をもって陣地に集まる。

○互いに陣地へ攻めて相手とじゃんけんをし、負けた方が輪を相手に渡して自分の陣地へ帰る。

○じゃんけんを正しくさせる。

○遊びのあと木蔭で休息する。

○新しい遊びについて話し合う。

反省

○男女別にしたので男児の圧力によって女児の活動が消極的であった。○二回目に男女混合にし、赤白同数に分れ、帽子、たすきで色分けをしたら遊びが活発になった。○教師に誘導されて参加した子三名。○じゃんけんの不正について教師に訴えた子はなかった。

3、その後

○輪をひとりで多く集めることに興味をもっていたのが味方どうし輪の融通をして遊びをすすめることを子どもたちが考え出し、いっそう意欲的になった。○じゃんけんや輪の渡し方などの間違いがなくなった。○両組の勝負のつけ方については一方が完敗したとき以外は、赤白別に集って輪の数を数えてきめることを話し合った。

○輪を相手に取られた場合、勝手に器具室から輪を取り出す子があったので、話し合いによって注意した。

七月上旬　○消極的な女児K・Yが積極的に参加するようになった。

○赤白の組の分れ方について話し合い、じゃんけんをして、「勝った方は白、負けた方は赤」とすることにきめる。

4、七月七日（木）

男児四名が先に立って女児も加わり、自分たちで遊びをはじめる。（男一六、女一九名）しかし赤白にうまく分れられないのでYが真っ赤になって整理している。「じゃんけんで勝った方は白、負けた方は赤になるの。」とくり返しているが、同数にうまく分れられない。教師の助言によって、じゃんけんをした子どうし手をつないで確かめさせたところ、ひとりで二人の相手とじゃんけんをしていた子があったため両組の差ができたことがわかった。

七月中旬　○自分たちで赤白に分れて遊びを進める。○輪を味方の陣地内で渡すことを子どもたちと話し合ってきめた。

九月中旬　○いつも他の遊びでは積極性の見られないM子がひとりで誘いかけ、次第に

数を増して三十四名で始めた。○四月当初傍観的であったM、J、Y子が積極的に参加し、喜々としてとび廻った。○教師の助言なしで赤白同数に分れ遊びを進めるようになった。○遊びを進めて行くあいだにさらに新しいルールの必要なことがわかって、子どもたちが話し合って決めていった。

・陣地は周りを線で囲む。

・同じ相手と一度以上じゃんけんをしない。

十月上旬　○九月中旬には他の組と合同でした場合、互いに活気がなかったが、積極的に誘いかけ、強い対抗意識が見られるようになった。○「花一匁」など二組に分れてする遊びのとき早く正確に分れることができるようになった。

十一月上旬〜　○さらに新しいルールが生れた。

・輪を味方からもらうときは、うばい合っていると遅くなるし公平に渡らないので順に並んで待つように子ども達どうしで決めた。

二、今後の問題

以上「輪とりあそび」を中心に子どもの遊びの発展のようすをのべてきたが、これはほんの一例にすぎない。さらにその他の遊びの種類と友人関係の観察記録（四月〜十二月まで）の結果を考察してみると、四月〜五月まではグループ単位での遊びであったのが、いまでは遊びを主としたグループの形成がみられるようになり、固定したグループによる固定した遊びがなくなり、友だちのつながりが有機的になった。しかし一方まだどの遊びにでも積極的に加われない子どもが三〜四名あるので、対人関係をひろげるのに役立つ興味ある遊びを経験させたいと思う。

（名古屋市立第三幼稚園）

放送を楽しく効果的に保育の中に取り入れるために

村上　洌

㈠、過去何年間かを振り返って見る時、放送が、私や幼児達を如何に楽しく、また内面的に多彩な影響を与え個性の伸展に役立ってくれたか計り知れない思いがする。私は今年度もまた、放送を楽しく効果的に保育の中に取り入れる事に苦心をせずにはおられない、やむにやまれぬ放送への愛情を持っていた。そして何時ものように入園式の次の日から、あたりまえの事のように、ごく自然の形で、放送を視聴する習慣を幼児につけていったのである。

入園当初、どこの幼稚園でも、履物を入れる場所、鞄掛け、お道具入

2月	目標	指導の留意点	2月	幼児の活動								教師準備	行事環境
				ラジオ	テレビ	健康	社会	言語	自然	音楽リズム	絵画製作		
単元 冬の日を楽しく過ごしましょう	①寒さに負けずに元気に外で遊ぶ ②氷 霜 雪などの自然物に関心を持ち冬の野山のようすに気付かせる ③	①なるべくうす着をする・なわとび、ボール投げのりものあそびなどをする・うがいをする・衣類の調節をする ②	1日	でて来いのおじさん アフリカへいく	ふくはうち　鬼は外	窓の開閉によって空気をきれいに	ストーブに伸良くあたる	テレビの幅合い（幅は内鬼は外）	学級園の手入れ かんきつ	こなゆきこんこ ちゅうちゅうねずみ	折紙（ふくすけ）	色紙	協議会
			2日	でて来いのおじさん アフリカへいく	すってんころりん（ころちゃんゆきだるま）		火の用心をする	豆まきについていろいろ		雪やこんこ 大雪小雪	ポスタカラー（ラジオのお話共同製作）	ポスタカラー	
			3日	こおったうさぎ	町へいったら	うがいをする		火事の話合い		ゆうびんやさん 豆まき	クレヨン（火事）		
			4日	豆の木	冬のはたけ		長いものを人中にもって来ない	今夜の豆まきについて	豆まきの豆と生の豆の水栽培	豆まき　雪だるま	鬼の面つくり さんぽう（折紙）	豆色紙	節分
			5日	自転車運転	氷すべり		洗顔、爪切	きのうの豆まきについて		こわれた水道	はり絵（豆まき）	色紙	